

砂丘のふらここ展 2012 の結果報告

実施主体名	「砂丘のふらここ展 2012」～第 24 回倉文協連合展～ 実行委員会																																						
事業名	「砂丘のふらここ展 2012」～第 24 回倉文協連合展～																																						
事業実施期間	平成 24 年 8 月 23 日（木）～ 平成 24 年 8 月 26 日（日）																																						
事業実施場所	倉吉博物館																																						
事業概要	<p>地元で活動する文化芸術団体・個人により、書道・洋画・版画・写真・日本画・染織と、幅広いジャンルにわたる芸術作品を一同に展示しました。</p> <p style="text-align: center;">～出品者名～</p> <table border="0"> <tr> <td>書道</td> <td>水谷鴨村 深田雅翠</td> <td>藤田春水 佐々木倫子</td> <td>山田美鈴 長尾美翠</td> <td>山崎伯峰 池田えつ子</td> </tr> <tr> <td>版画</td> <td>中原玉美 田中達郎 山崎勝美 坂田秀樹 伊東寛敏</td> <td>近藤正徳 毛利和子 山本和男 杉本春吉</td> <td>奥田幸衛 石脇正江 谷本撒秋 荒尾 緑</td> <td>小田加代子 林 小夜子 トバタカユキ 長田 司</td> </tr> <tr> <td>写真</td> <td>朝倉雅仁 清水節子 森脇登美子 山本浩一 秦野のぼる 計羽孝之 川本東洋</td> <td>池上憲文 田中賢治 山田敏和 山本紀弘 里田晴穂 豊嶋智幸 森田陽子</td> <td>上田福美雄 津村睦男 山田直人 山脇賢治 磯江一美 Ringen</td> <td>尾川伸弘 西谷照子 山根喬市 新 勝人 中村 武 松田龍太郎</td> </tr> <tr> <td>洋画</td> <td>西田佐智子 入江敏子 長尾俊一</td> <td>南場兄一 奥田弥智子 林本豊</td> <td>門脇賢太郎 佐伯文子 山崎美奈子</td> <td>秋本直子 高橋こうし 山根大和</td> </tr> <tr> <td>日本画</td> <td>中川端月 山根凌雪 徳田三凌</td> <td>井上畊岳 田中溪雪 岸本章</td> <td>東原玲泉 井谷蘭径</td> <td>松本恵春 宮本京花</td> </tr> <tr> <td>染織</td> <td colspan="4">吉田公之介 岩見代喜江 山田千代美</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">招待作家 桑田幸人（版画）</td> </tr> </table> <p><b><u>（会員出品者 77 名 作品数 100 点）※招待作家含む</u></b></p> <p><b><u>昨年比 出品者⇒2名増・出品数3点の減少</u></b></p> <p>昨年同様、今年も招待作家コーナーを設け、活躍著しい版画家の「桑田幸人」先生にご出品いただきました。ギャラリートークも盛り上がりました。</p>				書道	水谷鴨村 深田雅翠	藤田春水 佐々木倫子	山田美鈴 長尾美翠	山崎伯峰 池田えつ子	版画	中原玉美 田中達郎 山崎勝美 坂田秀樹 伊東寛敏	近藤正徳 毛利和子 山本和男 杉本春吉	奥田幸衛 石脇正江 谷本撒秋 荒尾 緑	小田加代子 林 小夜子 トバタカユキ 長田 司	写真	朝倉雅仁 清水節子 森脇登美子 山本浩一 秦野のぼる 計羽孝之 川本東洋	池上憲文 田中賢治 山田敏和 山本紀弘 里田晴穂 豊嶋智幸 森田陽子	上田福美雄 津村睦男 山田直人 山脇賢治 磯江一美 Ringen	尾川伸弘 西谷照子 山根喬市 新 勝人 中村 武 松田龍太郎	洋画	西田佐智子 入江敏子 長尾俊一	南場兄一 奥田弥智子 林本豊	門脇賢太郎 佐伯文子 山崎美奈子	秋本直子 高橋こうし 山根大和	日本画	中川端月 山根凌雪 徳田三凌	井上畊岳 田中溪雪 岸本章	東原玲泉 井谷蘭径	松本恵春 宮本京花	染織	吉田公之介 岩見代喜江 山田千代美					招待作家 桑田幸人（版画）			
書道	水谷鴨村 深田雅翠	藤田春水 佐々木倫子	山田美鈴 長尾美翠	山崎伯峰 池田えつ子																																			
版画	中原玉美 田中達郎 山崎勝美 坂田秀樹 伊東寛敏	近藤正徳 毛利和子 山本和男 杉本春吉	奥田幸衛 石脇正江 谷本撒秋 荒尾 緑	小田加代子 林 小夜子 トバタカユキ 長田 司																																			
写真	朝倉雅仁 清水節子 森脇登美子 山本浩一 秦野のぼる 計羽孝之 川本東洋	池上憲文 田中賢治 山田敏和 山本紀弘 里田晴穂 豊嶋智幸 森田陽子	上田福美雄 津村睦男 山田直人 山脇賢治 磯江一美 Ringen	尾川伸弘 西谷照子 山根喬市 新 勝人 中村 武 松田龍太郎																																			
洋画	西田佐智子 入江敏子 長尾俊一	南場兄一 奥田弥智子 林本豊	門脇賢太郎 佐伯文子 山崎美奈子	秋本直子 高橋こうし 山根大和																																			
日本画	中川端月 山根凌雪 徳田三凌	井上畊岳 田中溪雪 岸本章	東原玲泉 井谷蘭径	松本恵春 宮本京花																																			
染織	吉田公之介 岩見代喜江 山田千代美																																						
	招待作家 桑田幸人（版画）																																						

	<p>今年は部屋が第1～第3室のみの制限された中でしたが、バラエティ豊かな作品が並び大作も数点あり、それなりのクオリティを維持できたと思います。また新規出品の方が数名あり、新しい風を吹き込んでくれました。継続出品の方々も多く総合芸術展覧会として少しずつではありますが、賑やかになってきました。</p> <p>課題としましては、書道・洋画・染織の新規開拓と今回出品がなかったデザイン部門をどう掘り起こしていけるかが、来年の「砂丘のふらここ展」の成否の分岐点だと思われます。</p>																								
事業効果	<p>今年も独創性あふれる力作が並び、アンデパンダン形式（無審査・自由出品）の良さを存分に発揮できました。また、砂丘社運動の継承の意義を再確認し、沈滞する中部地域における文化芸術活動の発展に寄与できたと思われます。また、ギャラリートークや出品者と観覧者の対話により、コミュニティの活性化に貢献できました。</p> <p style="text-align: center;"><b>砂丘のふらここ展2012 来場者数</b> <small>（かっこ内は昨年数字）</small></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>9:00～13:00</th> <th>13:00～17:00</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23日(木)</td> <td style="text-align: center;">76</td> <td style="text-align: center;">25</td> <td style="text-align: center;">101(57)</td> </tr> <tr> <td>24日(金)</td> <td style="text-align: center;">95</td> <td style="text-align: center;">45</td> <td style="text-align: center;">140(62)</td> </tr> <tr> <td>25日(土)</td> <td style="text-align: center;">41</td> <td style="text-align: center;">41</td> <td style="text-align: center;">82(122)</td> </tr> <tr> <td>26日(日)</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td style="text-align: center;">98</td> <td style="text-align: center;">178(69)</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"><b>4日間合計</b></td> <td style="text-align: center;"><b>501(310)</b></td> </tr> </tbody> </table> <p>来館者は、上の表のとおり昨年比 191 名の増加となりました。</p>		9:00～13:00	13:00～17:00	合計	23日(木)	76	25	101(57)	24日(金)	95	45	140(62)	25日(土)	41	41	82(122)	26日(日)	80	98	178(69)	<b>4日間合計</b>			<b>501(310)</b>
	9:00～13:00	13:00～17:00	合計																						
23日(木)	76	25	101(57)																						
24日(金)	95	45	140(62)																						
25日(土)	41	41	82(122)																						
26日(日)	80	98	178(69)																						
<b>4日間合計</b>			<b>501(310)</b>																						
その他	<p>来館者は伸びましたが、広報の方法や実働部隊の編成など、組織作りの面からもう一度見直し、行動していかねばと思います。</p>																								